

## 中国政府、「政府公認」教会への統制を強化

PALABRA, 476, XI-03, pp.92-97

この3月、政府公認教会の40人の司教と「中国天主教愛国会」の代表24人が北京に集まり、同国のカトリック教会の運営について三つの文書を同意の上という形で承認した。これらの文書は、「政府公認」の信者を教皇と「地下」教会の信者から完全に分離することで、彼らの生活と活動に対し政府の締め付けを厳しくしようとしていると考える専門家もいる。

この50年間の間、中華人民共和国政府は「公認」教会を教皇庁から引き離そうとしてきたにも関わらず、「公認」教会の司教の85%が「地下」教会と連携して働き、ローマ教皇と一致していると考えている。彼らの多くは、司教に叙階される前か後に、秘密裏に教皇の「認可」を頼んでいる。しかし、「公認」教会を統制するために政府が作った道具である「愛国会」によって監視統御され続けている。

\* \* \* \* \*

「政府公認」教会と「愛国会」によってこの3月に承認された三つの文書は、政府の手になる指針ではなく、「政府公認」教会自身によって採用された自己規制という体裁を取っている。

最初の文書は『中国におけるカトリック教会の教区運営について』と題される。パリ・ミッション会の中国における責任者である Charbonnier 神父によれば、この文書は大した問題を含んでいない。しかしながら、中国の司教と信者の義務が何であるかは、政府当局が「愛国会」を通して決定するとあるのには首を傾げざるを得ない。おおむねこの文書は『教会法典』と矛盾するところはないのだが、特殊中国的な問題を若干含んでいる。この文書にはローマ教皇庁への言及はまったくないが、「政府公認」教会の司教たちは間接的な仕方でローマ教皇への忠実を示すように配慮した。司教の司牧的義務に関して、文書は「一、聖、公、そしてペトロを頭とする使徒たちから伝えられた教会への信仰を堅持し、信すべき真理が一つであり欠ける所がないという信仰を固く持つ」と言っているのだ。

第二の文書は『中国天主教愛国会の仕事の方法』という題である。その中で、「愛国会」の目的が、「中国共産党の指導的役割を支持し、母なる社会主義祖国への愛と熱意を育み、国家と中国教会の主権を熱心に擁護する」こととしている。第三の文書は『愛国会と中国におけるカトリック教会の司教団の議長たちによる共同集会のシステム』と題される。

中国におけるカトリック教会についてのアナリストである Angelo S.Lazzarot 神父は、最後の二つの文書への憂慮を隠さない。「『政府公認』教会の司教は、いつもその権威を「愛国会」によって制限されてきましたが、これらの新文書によって極めて重大な限界を押し付けられた」からである。香港の司教 Zen 師もまた、これらの文書が心配の種だと言う。

### 中国のカトリック信者

中国は950万平方キロメートルの面積と12億6200万の人口を持つ（全世界の5人に一人が中国人である）。中国のカトリック信者の数は正確なことは不明である。1200万以上で、その半分に少し満たない数が「政府公認」教会に属し、政府の統制を拒否しローマ教皇との絆を強調するために政府から迫害されている「地下」カトリック教会には600万余りが属すると言う者もある。

また他のデータでは、より多くの数を示す。「貧しい教会への援助協会」が『世界の宗教の自由についての2003年の白書』に発表したデータによれば、中国には8900万（全人口の7.1%）のキリスト教徒がいる。同国では28.5%が中国古来の宗教を实践し、8.4%が仏教、5.7%が他の宗教に属する。全人口の半分（50.3%）は政府公認的には、懷疑主義者が無神論者である。

北京の人民大学のキリスト教研究所所長 Yang Huilin によれば、「少なくとも、1500万がプロテスタントで、1000万が政府公認のカトリック教会に属する。」Boston Globe のレポーターIndira A.R.Lakhsmanan は、地下教会の信者は政府公認教会のその二倍であって、政府の厳しい迫害にも関わらず増えつづけていると言う。彼女によれば、「中国のキリスト信者の数はすでに中国共産党の党員のそれ（6600万人、2002年）を超えている。」

### 自転車で3時間の旅

地下教会の信者の生活は容易ではない。しばしば投獄される者もいる。降誕祭や復活祭などの大祝日が近づくとときや、あるいは共産党の党大会が開かれるときなども、監視が強化される。司祭や司教が逮捕され自宅監禁されることは日常茶飯事である。例を挙げるなら、2002年の聖週間には Zhengding(河北省)の司教 Julius Jiua Zhiguo が数日間投獄された。師は67年の人生のうち20年を監獄内で過ごしている。Wang Limao 神父（32歳）と Ma Shuugboa 神父（50歳）は枝の主日にミサを立てているところを逮捕された。また、Chen Mei 修道女（28歳）は子供に要理を教えたかどで15日間の刑務所生活を言い渡された（中国の法律では18歳以下の人に宗教を教えることはご法度である）。

Pan Zhein は“Catholic World Report”誌で地下教会の多くの信者の英雄的な生活について話している（名前は実名ではない）。天津（Tianjin）の地下教会の信者 Qian は毎日曜日朝の3時に起き、自転車で3時間の旅をして、午前6:30に始まるミサにあずかっている。その村の教会は政府公認教会のものであるが、そこでミサをあげる司祭 Shi Hong Zhen がローマ教皇庁への忠実と地下教会の司教の権威を認めると公言しているからである。

この神父はローマへの忠実を公言する前には天津に派遣されていた。その後天津から16キロ離れた Renzizhuang に移動させられたのだ。地下教会の信者たちが日曜日のミサに出席するためにその村に行き始めると、当局はその司祭を天津から40キロ離れた Zhongshin Zhuang に移動させた。そのために Qian のような信者はミサに出るためにそれほどの距離を旅せねばならなくなったのだ。

Qian の友人 Zhao は、自分の町でミサを見つけることが至難であったため、長い間ミサにあずかることができなかった。ある日、Qian が彼を自分があずかっているミサに誘った。そこで二人は Zhongshin Zhuang に朝の6:10に着いた。教会はすでに何百人の人でごったがえしており、後ろで立っていなければならなかった。Shi 神父は告解場で告白を聴いていたので、Zhao はその列に加わった。カトリックの教会にはもうずいぶん長い間行っていなかったので、非常に緊張し、言い渡された償いが10回の天使祝詞だったのか、ロザリオ10環だったのか忘れて、念のためにロザリオを10環祈った。

ミサが終わると Qian は Zhao を村の中心部に連れて行き朝食に誘った。しかし、Zhao は疲れきっており食欲がなく、ほんの少しをつまんだだけで、電車に乗り、月曜日に仕事場に出かけることができるために帰っていった。

## 政府の危惧

教皇庁の海外宣教研究所の宣教師 Bernardo Cervellera 神父の言うには、「中国政府は、「政府公認」教会と「地下」教会がいろいろなところで協力していることを危惧しています。・・・このごろでは、迫害は地下教会だけでなく政府公認教会にも及んでいます。公認教会の司教、司祭、信徒はますます厳しい統制下に置かれています。」数ヶ月前のことだが、政府公認教会のある司教が「中国の教会はすでに一つである」とイタリアの新聞に話した。このために、政府公認教会の司教たちは隔離され、夜昼となく監視され、神学生たちは毎週政治講話の聴講を義務付けられ、外国人の訪問者は始終見張られることになっているのである。

2000年1月6日、政府当局は政府公認教会の司教5人の叙階を強行した。最初の計画では12人の司教が叙階される予定であった(同じ日にローマで教皇が叙階した司教の数と同じ)。しかし、7人が辞退した。それは、この行為が中国政府による教皇庁への挑戦行為と考えられたからである。ローマ教皇庁は司教叙階を秘密裏にでさえ許可していない。この機会に興味深い事態が起った。中国で12年間働いているコロンボ会の宣教師 Daniel Cerezo 師によると、「この国の中でもっとも政治色の強い人民神学校の135人の大神学生たちが、叙階式参加をボイコットし、一人も出席しなかった。予言的な行動だと言える。」

アジアの教会での代表的な存在である香港司教 Joseph Zen Ze-kium (陳日君) 師は、最近次のようなコメントをした。「中国の教会は沈黙の教会であった・・・我々は地下教会を訪問することはできなかつたし、ただ政府公認教会の経営する神学校にしか行けなかつた。だが、それでわかつたことは、この教会は心の中ではローマと一緒にであるということだ。政府が、祈りの中にローマ教皇の名前を入れることを許可したとき、政府公認教会の信者の中で大きな喜びがあつたことが感知できた。・・・公認教会の司教の大部分がローマに忠実であるという理由で、教皇から秘密裏に承認を受けている。なるほど、それは公には宣言されない。同じく政府も見つめふりをしている。とは言え、最近是中国のカトリック信者の状況は悪化している」と。

## 秘密のミサ

Pan Zhejin 師は“Catholic World Repor”誌で Xiao と Yang という地下教会に属する北京の若い夫婦の経験を紹介する。この町の教会はすべて政府公認教会のものであるので、夫婦は普通日曜日には家で祈りを捧げ、大祝日には二人は地下教会のミサにあずかるために故郷に戻っていた。首都の外に住む司祭たちも、日曜日には首都を訪れ、秘密裏に信者の家でミサを立てる。それらの家は首都に住む地下教会の信者全員が参加するためには十分なスペースがない。安全のためにこれらの家の主人は出席者の数を厳しく制限する。普通は親族や親しい友人、そして司祭の知り合いだけがミサに参加できる。

Xiao と Yang は Hong の家でのミサに参加する許可を得た。毎日曜日午後8時の約束で。もしこの時間に司祭がいれば、ミサに参加する。もしいなければ、祈りをするか、ミサを立てている教皇のビデオか聖人のビデオを見る。これらのビデオを中国に秘密のうちに搬入されたものだが、信者にとって宝物と考えられている。不意をつかれることを避けるために、家の外では二人が見張りに立ち、聖体拝領の時には別の人々が彼らと交替した。

Hong の家には三つの部屋がある。一つが居間で、二つが寝室だ。台所とトイレは外の中庭にある。司祭はミサの前に寝室の一つで告白を聴くのが普通だ。通常は60人以上の人が来るので、部屋は信者であふれる。司祭は居間の角に備えられた簡単な「祭壇」でミサをたて、会衆はござの上に座ったり跪いたりしている。居間に入りきれなかつた人たちは、寝室に残る。

ミサは、警察の不意打ちの可能性を考え、簡単で短い。時間の節約のために、説教はミサの後で、十字架とろうそくという典礼用具を片付けてから行われる。

北京の地下教会の信者には、Hong のような運に恵まれず、ミサの途中で逮捕されたものもいる。ある場合は、ミサの途中で警察が侵入した。司祭は逃げおおせて特定されなかったが、会衆は全員厳しい罰金刑を課せられた。家主は、一年分の収入にあたる罰金を払うはめとなった。

## 痛々しい分離

2003年の7月、地下教会の司教 Joseph Han Zhihai (39歳) は、地下教会と政府公認教会のすべての司教に手紙を送り、二つの教会の一致を呼びかけた。蘭州司教の Han 師はこの『友人たちへの書簡』の中で、「これ以上イエスの『皆が一つとなるように』という祈りを無視しつづけることはできない。・・中国のカトリック信者をこのあいまいな状態から解放しよう。教皇は何度も言われたように、我々が赦し合うことが教皇の望みである」と書いた。

司教はまた「教皇が承認している政府公認教会の司教と地下教会の司教が、現在では中国の司教の大多数を構成している」と言う。この書簡は、この一致に向けた対話を始めることに対するある種の抵抗が、地下教会にあると認める。彼らは、聖座に対する公認教会のあいまいな態度を許容できないのである。公認教会を指導している「愛国会」が、(ローマからの)三つの自治(教え、位階制度、行政)を主張し分離をひどくしている反面、公認教会の多くの司教、司祭、信徒は教皇に忠実を保つために迫害、逮捕、時には死をも受容してきたし、今も受容している。

分離を保たせるもう一つの原因は、公認教会の若干の司教たちが、公然と教皇との一致を宣言することに恐れを抱いていることである。そのために Han 師は、「我々の信者たちに、我々が教皇と全教会の信仰に一致していることをはっきりと言おう。そうして、我々が何に属しているかをはっきりさせよう」と提案している。

9月にルーバン大学で行われた討論会で、中国教会の専門家の数人が Han 司教の書簡の意図がはっきりしないと指摘した。と言うのは、もしそれが公認教会の司教に教皇との一致を公にさせるためならば、Han 司教に対して中国政府は海外の勢力による干渉を受けているとし制裁を加えるであろう。またもし、反対に地下教会も公認教会も心の底では同じなのだと主張したいのならば、この書簡は地下教会の信者からは黒い目で見られるだろう。なぜなら、彼らは自己の信仰のために50年以上も迫害されてきたのだから。

## Yang 神父

教皇庁によって認められた北京の司教は死去したが、後任は空席のままである。首都在住で、教皇庁への忠実を公言する数少ない司祭の一人が Yang 神父である。師は92歳で、体の衰えのためミサを立てるために家を出ることができない。その老齢と病弱にも関わらず Yang 神父は厳重な監視下に置かれている。警察官が定期的に師を訪れ、近所の住民に師の活動について尋ねる。自宅内でさえミサを立てることが禁じられている。ときどき、地下教会の信者が師を自動車に乗せ、臨終の信者に病者の塗油の秘蹟をさずけてもらっている。

Yang 神父は、1949年に共産党が政権を握る前は、Zhending (河北省)にある修道院に住む修道者であった。修道師たちは1950年に修道院を追放され、大多数の修道士は香港に亡命した。Yang 神父は、二三人の修道士とともに北京に行くことを決め、そのブドウ畑で

働いた。1966年、文化大革命が始まると、修道士であったという理由で殴打され、「再教育」を受けることを強要された。Yang 神父が北京で地下教会に属するある教会で司牧活動を始めたときは、70歳を越えていた。あちこちの家でミサを立てていたが、1996年逮捕され、警察によってあらゆる典礼用の道具、聖書、十字架、その他の宗教関係の物品を押収された。

## 教皇庁と中国

ヨハネ・パウロ2世はこの10月、19世紀から20世紀の初頭にかけて中国で宣教師として働いた Joseph Freinademetz を列聖した。「中国人とともに生活し、自らも中国人となり中国人のメンタリティーと習慣を身に付けた」と教皇は聖人の人物を描く。「天国からこの国とアジア大陸すべてを見守りつづけて下さい」と。

「私は中国と中国人を愛する。彼らの中で死に、彼らの近くに葬られたい」とこの聖人は言っていた。そのとおりになった。山東（Shandong）省のある村でペストが流行したとき、病人の看護をしていて自らはチフスにかかり、そこで死去したのだ。Freinademetz は精力を福音の宣教に使い果たし、聖人が属していた神言会の1924年の報告によれば、カトリック信者が158人だった村を、神の恵みによって10万6千人の信者と4万4千人の求道者の共同体に成長させたのだ。

山東省の Yangpu と Linqing の公認教会の司教 Zhao Fengchang 師は、Freinademetz の列聖に対し中国政府は反発しないだろうと考える。と言うのは、「聖人は、すでに1世紀も前から教会の内でも外でも、多くの尊敬を受けており、その宣教師として行った慈善事業で有名だからである」。

2000年の10月にはそうは行かなかった。その際、中国政府は、教皇が義和団の乱で殺された120人の中国人殉教者（33人は西欧人の宣教師、87人が中国人信徒）を列聖したことを激しく非難したのだ。政府は、これらの120人は「外国のイデオロギーによって中国の民衆をたぶらかした」という「恐ろしい犯罪」の責任者である、と言うのである。

2001年10月、マテオ・リッチの北京到来400年記念の機会に、ヨハネ・パウロ2世は1951年依頼途絶えている中国政府との会話の再開を希望した。それは「相互の尊敬と深い認識に基づいた関係を打ち立てるため、教皇庁が、全カトリック教会の名で、また余の信じるところに従えば、全人類の善のために、中華人民共和国の当局との対話の再開を望むことには、何の不可解なこともない。この対話を通して、過去における無理解を克服し、互いに協力して中国人民の善と世界の平和のために働くことができるはずである」と書き送った。

翌日、中国の外務省広報官 Sun Yuxi は、数十年前から北京が教皇庁との関係改善のために要求している条件を思い出させた。「我々は二つの原則を持つ。一方でバチカンが台湾政府との外交関係を断ち、中華人民共和国政府が全中国を代表する唯一の政府であり、台湾は中国の固有の領土であることを認めること。第二に、バチカンは宗教的問題という口実で中国の内政に干渉しないこと、である」と。

教皇による司教の任命は、中国政府によって内政干渉と取られている。政府は司教の任命権を握り、他の宗教（プロテスタント、仏教、イスラム教、道教）に対してと同様に、カトリック信者の生活を支配したいのである。中国政府は、「愛国会」を通して厳しくコントロールできる宗教団体のみを認めている。このために政府公認教会しか認めないのである。

## 共産党

2002年11月7日から14日に開かれた第16回共産党大会では宗教問題は無視された。当時の首席であった江沢民 Jiang Zemin は60ページに及ぶ演説の中で、宗教には一切触れなかった。この公式の無関心は、中国社会と共産党自身が宗教に対して示す関心の高さととは好対照である。構造改革のための政府事務所の副所長 Pan Yue は、共産党が宗教を「人民のアヘン」とするマルクスの思想を捨てるように要求し、「宗教への関心は哲学的なもので、政治的なものではない。それゆえ、共産党の主要な監視の外に置かれるべきである」と主張した。

胡錦濤と温家宝が新しい首席と首相になってから、中国政府は民衆、特に長い間無視されてきた農村の住民（中国人の70%は農民である）に目を向け、彼らの期待に応えようとしている、と国の内外に宣伝することに努めている。しかしながら、共産党はまだ人民によい広範な自由を許可する気はない。160の非政府組織を閉鎖したこと、反主流派を狙った逮捕や処罰がまだひっきりなしに続いている事実がそれを示す。

#### 《付録》

ローマ教皇庁の海外宣教研究所の宣教師、Bernardo Cervellera 師が最近述べたことによると、「カトリックの信仰について、中国の若者、知識人、職業人たちの間で関心が目だって高まっている。・我々の計算では一年に10万人が洗礼を受けている。」

中国には現在、5000の教会、礼拝堂。138の教区（116が常住の聖職者を持つ）、117人の司教（72人が公認教会、45人が地下教会）、2650人の司祭（1650人が公認教会、1000人が地下教会）、34の神学校（24が公認教会、10が地下教会）、1670人の公認教会の神学生、800人の地下教会の神学生。4900人の修道士（3300人が公認教会、1600人が地下教会）、1800人の修道志願者（900人ずつ）がいる。

北京と石家荘の公認教会の出版物によれば、2002年には少なくとも107人の司祭が叙階された。地下教会の叙階も勘定に入れれば、およそ200人の新司祭があったと考えられる。最も多くの叙階があったところとしては、河北省（29名）、山西省（20名）が挙げられる。2002年の6月から10月の間に、62人の修道士が終生誓願をし、90名が誓願の更新をしている。他方、新しい教会堂の建築もある。一例を挙げれば、2001年12月 Shenzhen で聖アントニオ教会が献堂され、Sicuan には多くの新しい教会堂が開かれた。2002年8月には Fengjie で聖ヨハネ教会が、Wanzhou では聖ヨハネ・ボスコ教会が献堂されている。

しかしながら、香港の陳司教は言う。「もっとも痛ましいのは神学校のおかれた状態です。現在政府は以前よりもっと厳しい態度を示しています」。そして二つの例を挙げる。「Xian の司教は聖人ですが、教皇様が許可しなかった2000年の5人の司教叙階に反対したため、「罰」せられました。神学校を訪問することを禁じられたのです。河北には200人の定員数をもつ神学校があるのですが、政府は学生数を29に厳しく制限しています。多くの召し出しがあるのに、です」。